

平成 26 年度第 2 回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会 会議録 要旨

日時：平成 26 年 11 月 27 日（木）18：00～19：30

場所：402 会議室

出席者：別紙（資料 7）のとおり（氏家氏、里見氏、森島氏が欠席）

（事務局）丸山障害者福祉課長、村田課長補佐、杉内係長、久木田職員、庄崎職員

1 議題

- （1）平成 25 年度 障害者福祉計画推進状況報告書（案）（以下、報告書）の確定について

（事務局） 前回からの主な変更点は、次のとおり。

資料 1 ・ 5 頁の最下行に注意書きを追記

資料 2 ・ 4 頁に用語の注釈を追記

・ 18 頁「平成 26 年度予定」欄の上から 2 行目（4－1－1）に正式決定した内容を記載

・ 33 頁「平成 24 年度実績」欄の上から 7 行目（8－2－6）に詳細な内容を記載

・ 35 頁「平成 24 年度実績」欄の上から 3 行目（8－3－6）に詳細な内容を記載

・ 36 頁「評価方法」「事業の方向性について」を追記

・ 55 頁の一番上の表を「平成 26 年 5 月 1 日現在」から「平成 25 年 5 月 1 日現在」に修正

・ 60 頁以降にアンケート結果を追記

（委員） 資料 2 の 71～72 頁の表をもう少し拡大してほしい。

（事務局） 修正する。

（委員） 資料 2 の 56 頁の一番上の表は学級数の確定が 5 月 1 日なので 5 月 1 日時点にした方がよいのでは？

（事務局） 修正する。

（委員） 今回のアンケート実施により、障害者福祉計画を知らなかった方にも知ってもらう機会が持てたのでよかった。福祉サービスは必要な時にすぐ使える事が重要であり、それが市民の満足度につながらと思う。

（委員） 資料 2 の第 2 章の ABC 評価について少しばらつきがあるように見受けられたが、各課によってさまざまな評価基準があるのだろうと感じた。

（事務局） 誰が見てもすぐに理解できる評価方法にしていきたい。

(委員) 質に対する評価は難しいが、今後も引続き検討していきたい。

(2) 第4期障害福祉サービス計画(素案)の審議について

(委員) 自立支援協議会の各専門部会でもこの計画に向けた話し合いを行っている。

(事務局) 自立支援協議会の他に、9つの障害者団体との意見交換会を実施して計画を作成した。主な内容としては、資料3「2 平成29年度における成果目標の設定」に記載のとおり。基幹相談支援センターの詳細については37頁のとおり。

また、資料6のとおり平成26年12月にパブリックコメントを実施し、平成27年3月の本委員会で審議した後、今年度中に策定する予定。

(委員) 基幹相談支援センターの実施主体は鎌倉市か？

(事務局) 市が事業所へ委託して行うので、実施主体は市になる。

(委員) 地域で起こっている相談事をワンストップで受け止められるシステム作り、権利擁護を含めた相談機能ができるとよいと思う。

(委員) 資料3の14頁に「雇用奨励金の支給」とあるが、資料1の11頁と資料2の18頁では評価Cとなっている。これらの整合性はとれているのか？

(事務局) これは雇用奨励金の仕組みを見直した経緯があり、大企業は制度が整いつつあるため、中小などへの支援を増やそうと方針が変わったため評価Cとなっている。金額は減っても件数を増やすなど今後も継続して実施していく予定なので計画に含まれている。

(委員) 雇用奨励金の仕組みの見直しについては問題ないと思うので、資料2の18頁の4-2-1「事業の方向性の理由」欄にコメントがあればよいと思う。

(事務局) 資料3の6頁「ウ 本市の考え方」について、入院中の人数が分からなかったが、13病院にアンケート調査して9病院から回答があった。36人(うち65歳以上20人含む)の受け皿を検討して、単純にグループホームをたくさん作るのではなく、ホームでのケアなど、ハードだけでなくソフト面の整備も大切な課題だと考えている。また、65歳以上が多いということで高齢者サービスや医療との連携も今後の課題になってくると考えている。

(委員) 精神障害者といっても精神疾患や依存症、発達障害などがあるので、依存症の人が多いエリアとそうでないエリアで対応策を考え

るなど、ニーズに即した計画が出来た方がよいと思う。

(委員) 地域への移行を実現するには、1人1人に合ったきめ細やかなサービスを考えていかなければならない。

(委員) 計画を定めるだけでなく、サービス面も考えていかなければならない。3年後の基本計画の見直しの際には、65歳以上の介護保険優先という現在の制度などについても、1つの大きな課題になると認識している。

(事務局) 児童福祉法の改正に伴い、資料3の76頁「イ 相談体制の充実」にあるとおり、子ども子育て支援新制度との連携も図っていきたいと考えている。また、78頁の「(4) 児童通所支援事業等の種別ごとの必要量の見込」も新たに追加した。

(委員) 特別支援学校へのニーズが高まってきているが、学校では出来ることと出来ないことがあるので、鎌倉の実態に合わせた支援を行ってほしい。

(委員) 障害者福祉計画は、必要としている人にまだ知られていないことがあるので、周知の方法についても検討してほしい。

(委員) 国が地域移行の施策を進める今だからこそ、地域活動支援センターの役割が重要だと感じている。

(委員) 基幹相談支援センターに期待したい。

2 その他

(1) 平成26年度第3回鎌倉市障害者福祉計画推進委員会の日程について

(事務局) 本日の推進委員会と自立支援協議会での審議を踏まえて、第3回の推進委員会を3月下旬頃に開催し、第4期障害福祉サービス計画を確定させる予定。